

令和5年2月の実験

今回は 1000g の生ごみをキエーロ葉山と毛呂山のキエーロに 500g ずつ投入し実験をおこなった。実験内容は、水分量の違いによる分解スピードを検証した。元々の土の水分量に差異が生じないように、実験開始 1 週間前に全体を攪拌しながら水を投入し、砂埃がおきない程度まで湿らせた後、両方のキエーロの土を半分ずつ程度交換して再度攪拌した。

【投入したもの】

お茶葉、ご飯、麺類、麺、野菜、

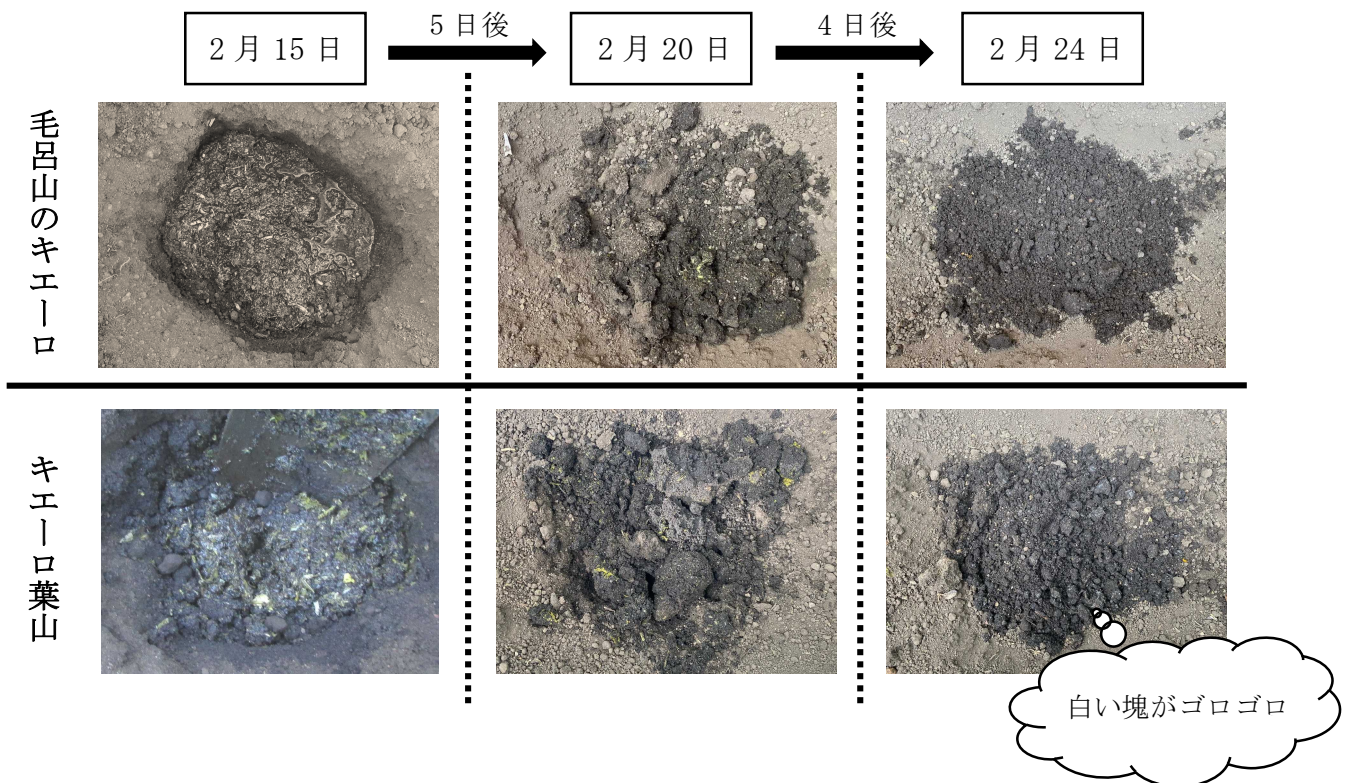
(2 箇所の生ごみが均等になるようによくかき混ぜてから投入した。)

キエーロ葉山 : 生ごみ投入時水 500ml (ちょうど良い見た目)、攪拌時 250ml×4 回

毛呂山のキエーロ : 生ごみ投入時水 1000ml (いかにも水分が多くベチョベチョ)、攪拌時 500ml×4 回

【結果】

毛呂山のキエーロは 9 日目に生ごみが消滅した。キエーロ葉山は 9 日目は白く固まっていたため、砕いて攪拌したところ、その 3 日後には生ごみが消滅していた。水分をたくさん投入した方が分解が早かった。



【考察】

水分を多量に投入した毛呂山のキエーロの方が消滅が早かった。要因としては、乾燥と北風の影響で黒土の表面がすぐに乾燥してしまう状態だった。そのため、生ごみに投入した水分も黒土が吸収したり、蒸発等で、生ごみの分解に使われる水分が少なくなっていたと考える。しかし水分量を倍にしても全体的にそこまでの差が無かったことから、定期的に攪拌させていれば、水分量に差があってもそこまで影響を与えない事がわかった。